

平成26年 第15回教育委員会会議録

1 日 時

平成26年12月16日(火)

開会 13時40分

閉会 15時00分

2 場 所

教育委員会室

3 出席した委員

金田清委員長、横山真紀委員、橋正徹委員、眞鍋知子委員、木下公司教育長

4 説明のため出席した職員

青木哲雄教育次長、平畠敏彦教育次長、齊田正活教育次長、金戸清外志教育次長兼庶務課長、表純一教育次長兼教員指導力向上推進室長、竹中功教育次長兼学校指導課長、宮崎栄治教職員課長、坂井芳子生涯学習課長、柴田政秋文化財課長、森山喜博スポーツ健康課長

5 議案件名及び採決の結果

- | | | |
|--------|-------------------------------|--------|
| 議案第39号 | 文化財の県指定に係る石川県文化財保護審議会への諮問について | (原案可決) |
| 議案第40号 | 石川県生涯学習審議会委員の委嘱(任命)について | (原案可決) |
| 議案第41号 | 教職員の人事について | (原案可決) |

6 報告案件

- 平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における本県の結果概要について

7 審議の概要

・開会宣告

金田委員長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第39号は、審議会への諮問予定案件のため、議案第40号及び議案第41号は、人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定。

・質疑要旨

報告事項 平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における本県の結果概要について

(森山スポーツ健康課長説明)

資料の6ページをご覧ください。

まず、「I 調査の概要」について、説明いたします。

「1 調査目的」から「4 調査内容」については、前年度同様で記載のとおりです。

「5 調査方式」につきましては、平成25年度に引き続き悉皆調査により行われており、「6 調査を実施した本県の公立学校数・児童生徒数」については、記載のとおりであります。次に7ページの「II 調査結果」をご覧ください。

まず、「1 実技に関する調査の結果」について、説明いたします。

「① 種目別の結果」については、本県の平均値は、小学校男女、中学校男女の種目のうち、中学校女子の持久走(1000m)を除く全ての種目で全国の平均値を上回りました。

「② 体力合計点の結果」であります。これは各調査種目の記録を1点から10点に得点化した上で、8種目分を合計した得点であり、80点が満点になります。本県は小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回り、全国の上位に位置しております。

このことは、平成18年度から本県が独自に実施している「児童生徒の体力・運動能力調査」の結果をもとに、各学校で積極的に体力アップに取り組んできた成果が表れているものと考えております。

続いて、8ページをご覧ください。

「2 質問紙調査の結果」について、主な内容を説明いたします。

「(1) 運動やスポーツをすることは好きですか」については、「好き」「やや好き」と回答した本県児童生徒の割合は、小学校、中学校の男女とも全国と同程度という結果でした。

9ページをご覧ください。

「(2) 体育の授業は楽しいですか」については、「楽しい」「やや楽しい」と回答した本県児童生徒の割合は、小学校では男女とも全国と同程度、中学校では男子が全国よりやや低く、女子は全国と同程度という結果でした。

今後、本調査結果をもとに、体育の授業改善をはじめ、全ての公立小・中・高等学校で実施している「体力アップ1校1プラン」の一層の充実を図りながら、「体育の授業は楽しい」「運動やスポーツをすることは好き」である本県児童生徒を増やし、更なる体力向上に努めてまいりたいと考えております。

【質疑】

(眞鍋委員)

質問紙についてですが、全国的に同じ時期に同じように行われているのでしょうか。

(森山スポーツ健康課長)

そうです。

(眞鍋委員)

そうすると9ページの「体育の事業は楽しいですか」について、中2で男女とも「楽しい」と回答した割合が全国と比べると本県は低いように思われます。

もしデータがきちんと全国のものと比較できるのであれば、統計的な有意差、本当に本県は全国と比べて低いと言えるのかどうかと言った確認を少しした方が良いのではないのでしょうか。体力・運動能力はあるけれども、「楽しくない」と言うデータだったとしたら、改善するところがあるのかも知れません。

(森山スポーツ健康課長)

文部科学省によると「楽しい」「やや楽しい」と回答した生徒の割合が、全国平均と比べ2%以上ですと「やや低い」と言う表現で、本資料もそれに基づいて表現してありますが、今、眞鍋委員がおっしゃったことについても、今後、分析をしたいと思っております。

(眞鍋委員)

「やや楽しい」まで含めるとそんなに差はないように見えますけれど、「楽しい」と言うところを注目すると少し本県は「楽しい」と思っている生徒が少ないように思えます。

(森山スポーツ健康課長)

今後、調査結果を調べてみたいと思います。

(金田委員長)

「楽しい」と「やや楽しい」を合わせると2%程度の差であるが、「楽しい」の数値を分析してみしてほしい。

(横山委員)

学力の時も「勉強が好きですか」の問いに、なぜか本県の子供たちは遠慮がちなのか「あまり好きでない」「まあまあ好き」という子どもが多くて、しかし、学力は全国を上回っていると言うところ、今回の結果と少しにているなあと思いました。

特に中2の男子なのですが、8ページの「運動やスポーツをすることは好きですか」の問いには「好き」「やや好き」が全国と同程度なのですが、9ページのように「体育の授業」と言う問いになると、急激に低くなる。その部分が少し気になりました。

それが「体を動かすことが好き」と言う単純な問題なのか、自己表現ですとかそういった部分の問題なのか、難しいと思うのですが、分析ができるものでしたらしていただきたいと思います。

(木下教育長)

この設問に対する答えを見たときに、我々も内部で厳しく議論をさせていただきました。やはり体育の授業が「楽しい」の範疇外にあると言うことは、大きな問題であると思います。

全国調査でその原因分析をするのは、統計的には無理があると思いますけれど、県内の

中2の男子に対して、これは新年度に行っても問題ないと思いますが、原因分析と言うか、なぜこうなっているのか、どのようにすれば「楽しい」と思える授業になるのか、そう言ったことをしっかり把握するという中で、体育の先生の皆さんにどう言った取り組みが今後必要になるのかと言うことは、やはりある意味厳しく問い詰めていく必要があるのではないかと考えています。今、非常に抽象的な言い方をしましたけれど、そこはしっかりやらないといけないという認識で私はいますので、悉皆調査は難しいと思いますが、抽出して調査し、どこに楽しくない原因があるのか、何をすれば楽しいのか、そう言うことをしっかり突き詰めていく必要があると思っています。

(金田委員長)

指導する先生に起因するものであれば、これは由々しき問題であると思うが、日本全国の教育課程の内部に起因するものであるのかも含めて、今、教育長の言われたような十分な分析が必要になるのかと思います。

(木下教育長)

やはりこれだけの差、本県で「楽しい」と回答した生徒の割合が44.4%で全国平均が52.3%、その差が7.9ですからこれがたまたまの数字だと言うことではない。これは真摯に受け止める必要がありますと言う話はしていますので、ちょっと時間をいただいて、しっかりと対応していきたいとそうように考えています。

(橋正委員)

質問が少し抽象的で難しいですね。「楽しい」か「楽しくない」、それだけではどう捉えて良いのか。

委員長の話にもありましたが、教育課程そのものに問題があるのか、あるいは一人一人の教師の授業の組み立てというか、具体的な教師の技量というかそう言うところに問題があるのか、「なぜ楽しくないのか」と言ったもう一言掘り下げた質問があれば見えてくるのだろうけれど、「楽しい」か「楽しくない」だけを問われてもね。

(木下教育長)

日本人は、他国から見ると悲観的な意見が出るということですがけれど、石川県というエリアだけ捉えて、石川県の子供達がより悲観的だということはないような気がするので、そこは少しニュートラルに原因分析をやってみれば良いかなあとかういうふうに思っています。

(金田委員長)

委員の皆さんの意見を聞いていますと、心配してるのは教える先生が旧態依然とした指導法でもって、体育の授業をやっているのではないかなあと言うことに帰するのではないかなと思うので、是非、指導主事の授業訪問などの中で、指導方法の中身、旧態依然を引きずっている授業であったら、改善していくようなそう言う方法を分析し、新年度に向かって打ち立てていただけたらと思います。

(橋正委員)

楽しくないのにすごく体力・運動能力の結果が良いのですが、それはどういう分析をされていますか。

(木下教育長)

「体力アップ1学校1プラン」と言う本県独自の取り組みをしまして、意図して小学校や中学校の子ども達の体力の向上について、学校ぐるみの取り組みをしていただいていると言うようなこともありますし、基本的に先生方の教科指導においてもそうだと思いますが、体育の指導においても、きつときめ細やかな指導をやっていただいていることから、体力・運動能力についてもある一定レベルの水準というものが維持されているのではないかと思います。

(金田委員長)

懸案であったハンドボール投げ、投てきの方も着実に上手く結果が出ているのではないですか。

(森山スポーツ健康課長)

握力、ハンドボール投げについては、全国平均を上回っていると言うことで、今後も気を抜かず、伸びるように取り組んでいきたいと思っています。

(木下教育長)

ハンドボール・ソフトボール投げというのは全国の平均自体が過去と比べると低いと言うこともあって、これはスポーツ形態、野球やソフトボールというものが実施されている割合が少なくなって来ているかも知れない。サッカーが非常に盛んになれば、ある意味上半身を使って投げるような運動が少なくなりますから、運動の形態というものの変化に対して、何らかの対応をとっていかないとアンバランスになってくるのかと思いますので、全国平均より高いと言うことより過去の平均値というものがどのように変化しているのかと言うこともしっかりと見ていく必要があるのかと思います。

(橋正委員)

全国平均が低いね。女子は10m位しか投げられないと言うことなんですね。

(木下教育長)

日常的にボール投げするとか言うことが、少なくなってきているのかも知れませんね。

(橋正委員)

遊びや生活経験の中で、今の子は物を投げるということが、恐らくあまりないのでしょうかね。

(金田委員長)

基礎体力というか、体力は気力の元、体力がないと気持ちが萎えてしまうから、やはりこれから、成長過程においても基礎的な体力を維持していく必要がありますね。その意味で非常に良好な数字をあげられたのではないかと、石川の教育にとっても大きな結果でないかと言う思いがするのですが、ここで手を抜いてしまうと、人間楽な方に行ってしまいますから、今までの「体力アップ1学校1プラン」これも含めて、また強い選手、スパースターも作らなければいけないですけど、すべての児童生徒の体力を底上げしていくということで強く優秀な選手が出たりするのだと思いますので、是非これからも、気を緩めることなく、市町教委と連携しながら、児童生徒を見て行ってほしいと思います。

(金田委員長)

以降の審議については、非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第39号 文化財の県指定に係る石川県文化財保護審議会への諮問について（非公開）
柴田文化財課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案どおり可決された。

議案第40号 石川県生涯学習審議会委員の委嘱（委任）について（非公開）
坂井生涯学習課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案どおり可決された。

(金田委員長)

人事担当教育次長以外の教育次長と、庶務課長及び教職員課長以外の課長の退出を求める。

議案第41号 教職員の人事について（非公開）
宮崎教職員課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案どおり可決された。

・閉会宣言

金田委員長が、閉会を告げる。